

# たかだいら 高平遺跡

## 遺跡データ

【所在地】村上市大関字上野 【主な時代】縄文時代中期前葉～中葉 【種別】集落跡  
【遺跡の発見年月日】昭和48年10月22日 【現況】畑（民有地）、道路（市有地）  
【立地】門前川右岸の河岸段丘上 【主な発掘調査履歴】平成9年5月～平成10年10月  
【主な遺構】石組み炉を伴う大形建物跡、遺物廃棄場  
【主な遺物】火炎土器（馬高式）、東北系土器（大木式）、北陸系土器（天神山・上山田式）、土偶、土製品、石器類、炭化材など 【報告書】『高平遺跡』村上市教育委員会（平成13年3月発行）

新潟県文化財保護審議会の答申を受け、令和4年3月25日、新潟県教育委員会によって高平遺跡出土品853点が、新潟県有形文化財（考古資料）に指定されました。これにより、村上市内の県指定文化財は11件、うち、考古資料としては、後期旧石器時代～縄文時代草創期の樽口遺跡（たるくちいせき／朝日地区）、縄文時代後期～晩期の元屋敷遺跡（もとやしきいせき／朝日地区）出土品に続き3件目となります。853点の内訳は、火焰型（かえんがた）や王冠型（おうかんがた）などを始めとする土器119点、土偶（どぐう）や土版（どばん）などの土製品89点、石鏃（せきぞく）、石斧（せきふ）、石錘（せきすい）などの石器類645点です。現在、これらの出土品については、村上市教育委員会が保管しています。遺跡の特徴について、次に記します。

### 1 遺跡の立地と時代

高平遺跡は、村上地区の三面川（みおもてがわ）の支流である門前川（もんぜんがわ）右岸の河岸段丘上に位置します。周辺は、標高40m前後の西向きのひろびろとした畑地となっており、昔から土器片や石器が拾えることで有名でした。

高平遺跡は、出土した遺物の特徴などから縄文時代中期前葉～中期中葉（今から約5,000～4,500年前）にかけての遺跡と考えられます。



復元された火焰型土器(中央)と王冠型土器(左・右)

### 2 発掘調査

遺跡の範囲内で市道の改良・拡幅が計画されたことから、工事に先立ち、平成9年5月から平成10年10月まで、2年にわたる発掘調査が村上市教育委員会によって行われました。調査は道路形状に合わせ、長さ約180m、幅約6mの範囲で実施されました。その結果、狭小な発掘調査面積にもかかわらず、驚くほど多くの遺物が検出されました。

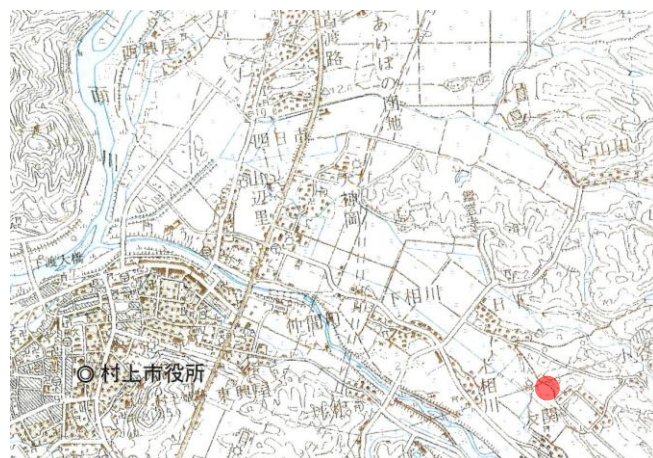
### 3 遺物と遺構

#### (1) 遺物

##### ①土器

遺跡からは、みかん箱大の容器で約800箱の縄文土器や土製品、2,194点の石器類が出土しました。

出土した土器は、大木（だいぎ）7b～8b式と呼ばれ、比較的大型で、縄目模様に4単位の大仰な突起、橋状把手などを有する東北系土器のグループ、天神山（てんじんやま）式や上山田（かみやまだ）式と呼ばれ、立体的な斜行渦巻文などを有する北陸系土器のグループ、そして、馬高（うまだか）式と呼ばれ、主に



高平遺跡発掘調査地点

火焰型土器と王冠型土器とで構成される地元新潟の在地系土器のグループ、いわゆる火炎土器(かえんどき)に大別されます。

さらに、在地系土器と東北系土器の特徴、あるいは、在地系土器と北陸系土器の特徴とがそれぞれ融合して独自に発展した高平遺跡ならではの他に類例を見ない土器のグループがこれに加わります。

特に、火焰型土器、王冠型土器の出土量は、下越地方で最も多く、また、まとまった量が出土する遺跡の北限と思われます。これまでに復元ができた高平遺跡出土の土器数は589個体にも及ぶことから、高平遺跡は、当時の東北地方と北陸地方を結ぶターミナルステーションのような、とても大きな遺跡であったと想像できます。今回、それぞれの土器群で典型的なもの119点が県指定となりました。



※東北系土器

東北系在地土器

在地系土器

北陸系在地土器

北陸系土器

[東北系と在地系の融合]

[北陸系と在地系の融合]

### 高平遺跡出土土器の構成

#### ②土製品

土器以外の粘土の焼物が土製品です。儀礼・祭祀などに用いられたと考えられる土偶、三角形土版、三角壻形土製品(さんかくとうがたどせいひん)など89点が出土しています。

特に58点が出土した土偶の数は、下越地方の同時期の遺跡の中で突出しており、中でも頭部が平たい「河童形(かっぱがた)」と呼ばれるものが多く出土しています。89点全てが県指定となりました。



土偶頭部(河童形)

※土偶胴部

#### ③石器類

出土した2,194点のうち、破片、細片などを除く石鏃、石匙(いしさじ)、石斧、石錘、石皿(いしざら)、磨り石(すりいし)などの製品645点が県指定となりました。川原の石などを加工して設けた凹部に網を掛け、漁に使用したと考えられる石錘の数が多いことが特徴で、94点出土しています。漁労が盛んだったのかも知れません。併せて、魚の腹を裂くのに用いられたとされる鳥の嘴に似た「嘴状石器(くちばしじょうせっき)」も見つかっています。

また、自然科学分析の結果、石鏃や石匙の石材として、山形県産や長野県産などの黒曜石(こくようせき)が一部使用されていることも興味深い事実です。



石錘



嘴状石器(1・2)

石匙(3/長野県産黒曜石)

## (2) 遺構

遺構では、合計4基の石組み炉が見つっています。そのうちの3基は、一直線上に並び、全て焼土を伴い、左右が周溝(しゅうこう)に挟まれていました。このことから、3基の石組み炉は、みな、1棟の竪穴建物(たてあなたても)に付随していた可能性があります。この建物は、柱や溝の痕跡から、長軸約15m、短軸約6mの大きな長方形であったと推測されます。大形竪穴建物は、通常の住居と異なり、集落の共同の作業場や集会場であったと考えられていて、各地域の規模の大きな拠点集落に存在したとされています。さらに、調査では、この建物跡の内側から焼けて炭化した木材がちらばった状態で多く検出されました。

自然科学分析の結果、これらは、約4,500年前のクリの木であることが判明しました。炭化木材の中には「ホゾ穴」らしき加工痕が認められるものがあることから、見つかったのは建物の構成部材であった可能性があります。つまり、この大形の建物は、今から約4,500年前の火災で焼失してしまったと考えられるのです。縄文時代中期の建築部材とすれば、非常に珍しいことで、全国的にも数例の検出があるのみです。



直線上に並ぶ石組み炉(大形建物跡)



炭化材検出状況



遺跡現況



発掘調査のようす(平成10年)

※印写真：小川忠博(写真家)氏撮影

### 村上市所在の新潟県指定文化財一覧

種別	名称	員数	所在
建造物	西奈彌羽黒神社境内摂社神明宮本殿	1棟	村上地区
考古資料	樽口遺跡出土品一括	3000点	朝日地区
考古資料	元屋敷遺跡出土品	600点	朝日地区
考古資料	高平遺跡出土品	853点	村上地区
工芸技術	村上堆朱	—	村上地区
無形民俗	岩船まつりのしゃぎり曳行と「とも山」行事	—	村上地区
無形民俗	大須戸能	—	朝日地区
史跡	馬場館跡	—	荒川地区
史跡	大葉沢城跡	—	朝日地区
天然記念物	石船神社社叢	—	村上地区
天然記念物	小俣の白山神社の大スギ	—	山北地区